

東由利村報

No. 61

37・1・1

発行所 秋田県東由利村役場
印刷所 株式会社 本間印刷所

明けて
おめでとうございます

1962年

元旦



年頭所感

村長 阿部直一郎

新年おめでとうございます。本年もあいかわらずお願いいたします。

お正月がきて、また一つ「とし」をとりましたが、年をとることについて若返りたい、これが私のひそかな願いです。年頭にあたつて切実にそう思います。

生あるものゝつねとして、年令の増加はいかに抵抗しても仕方がないとしても、私の考えるのは「精神的な年令」「心の若さ」です。これだけはなんとも一つずつ若返つて行きたいと考えるのです。老成への抵抗といつてもよいかもしれません。

世の中に強い「弾力性」と「柔軟性」を持った若々しい精神ほど好ましく、頼もしく、また美しいものはないと思います。若い方々のうしろから、おくれずについて行く限り、私はけつして道に迷う心配はないという気がいたします。だからこそ年をとればとるほど青春への理解力、今の能力を失わない努力が肝心になつてくるのです。

老年は「知恵」であり、「知識のみごとな堆積」であることに間違いがないとすれば、その豊かな知恵も若々しい精神と結びつかない限り、結局は空しいものと化してしまふのであらうと思います。

人間の一番美しいものはやはり「青春」だと、くり返してこの年頭にあたり私はいいたい。今年も皆さんに幸多きことを、ひたすらお祈りいたします。

曲り角
にきた農
村を救う
ため農業
基本法が



農協合併実現の年へ

議会議長 佐藤与吉郎

の百年
の大計を
樹てるの
がいまで
す。

明けておめでとうございます。

来る年も来る年も幸あれと願うものでありますが努力なくしては決して幸ある年を迎えることができません。

さて本年度の第一の課題はなんといつても農協合併でしょう。繁栄している町村には必ず立派な農協があります。村民のほとんどが農業によつて経済をまかなつており、農協は我々の経済の柱であると同時に経営指導の源動力、つまりは財布のひもでもあり、モートルでもあるわけです。

が、経済団体である農協が合併のため赤字をせおわされる心配はもうとうございませんし、経済の如何によつては如何ようにも改善されます。農家が自力でやれるならそれでもよいでしょう、しかしそれではせつかくの舟にのりおくれまふ。

政府が一村当り莫大な資金をつぎこんで農家の近代化を計り、経営を合理化し労力を少くしてやりやすい農村にしようと計画しています。この機会をのがさず補助金や融資をどつさりもらつて改善を計らなければなりません。百年の大計を樹てるのがいまです。

村に四つの農協があつてお互に小さな殻に閉じこもつて開こうとしません。農協合併の話をすると赤字をおわされる、サービスが悪い、距離が遠くなる等々、何も好んで合併しなくとも、現在通りで十分だと申されます。

生産単位も消費単位も大きくなり、個々の生産消費は問題にならなくなりました。事業に対する金は村を通じて農協にまわります。政府では一村一農協を対照にしております。住みよい農村は一村一農協からはじまる、といつてよいでしょう。

村当局と農協は車の両輪です。この際あらゆる感情を捨てて大同につき、一体となり住みよい明るいゆたかな東由利村をきずくため、農協合併の一日も早い実現に努力しようではありませんか。

回顧と躍動する希望のもとに、また新しい年を迎えました。昨年は地方教育行政施行五周年にあたることも、教育界にとつては多端な年でありました。榮譽に輝やく秋田国体の開催、一齊学力調査の実施、第二室戸台風による学校被害などにあいました。が、関係各位のご理解により克服できましたことを、心から感謝申上げる次第でございます。

本年度の教育行政としては①工業日本の適応人を育成する科学教育の振興策として両中学校に特別教室の増設②個人の完成をめざして本・分校の教育の一体化、と特に分校施設の充実③社会教育振興のため公



山積の教育施策

教育委員長 小松忠一郎

民館活動の強化などがあります。その他学校給食の普及、教育環境の向上と施設、設備の増強など山積いたしております。これらの諸施策を学校側と緊密な調整をとり村当局、議会とも鉄石の連結をもちつゝ、あらゆる角度から創意工夫して強力にその実現をはかつてまいりたいと念願するものであります。教育はすべての根本をなす「人」を造る営みであり、百年の大計を樹て、投資していく大事業でございます。



たんたんとした大琴地区舗装道路

村 政 紙 上 対 談

1962年の展望

いよいよ新しい年が明けました。この月日のごとく、村政も一刻の休みなく明日の輝やかなしい村づくりのため動き続けております。ここにAさんとBさんの登場を願って新しい年の、村政の展望を語っていただきました。今回は道路と酪農問題が中心である。

所得倍増は初耳の言葉と
思うでし



世の中に、うたい文句というのがあります。うたい文句の最近の秀逸は「所得倍増」でしょう。偉い人のいうことを簡単に信用する癖があります。総理大臣のいうことは信用するなというのではありませんけれども、今になつて去年の経過をみれば、文句のとおりはいかなかつたことが判ります。

うたい文句

公民館長 小 松 栄 男

すから、色々
なところにエ
ヤーポケット
が生じます。

ようが、一度経験済みです。わが国の軽工業発展時代は一回目の所得倍増でしよう。反面、農村では自作農が没落した時代です。現在、政府が誰であつても、文化国家として生きて行くためには、基幹産業を世界的なレベルに引き上げなければならぬわけでありますが、ボーナスが六千億、供米代金四千

要は世の中のうたい文句というものは、一度自分の腹の中でコナスことが大切です。このコナス態度を自主といいます。今年も、色々なカケ声、〇〇調、××ムードというのが出てきましようが、一度は、自分というものを通して考えるように勉強しましょう。

今年も高く建設のつち音

国道の舗装継続など朗報ぞくく

昨年だけで一億円以上の
の公共事業

A あけましておめでとうござ
います。
B おめでとうございます。
A 高浜虚子の句に「年を以て
巨人としたり歩み去る」という
のがあります。歩み去り、歩
み来る年の足音の大きさは近年
とくに強く感じられますね。
B 本村は一般に十年のおくれ
があるといわれておりますので
これを取りもどすべく積極
的に事業を進めているので
その感じも強いはずで、
例を道路にとつても本村地
内の国道整備公共事業が昨
年中だけで一億円以上もの
事業量が消化されております。

す。こんなことは他町村ではめ
つたに例のないことです。
A そうですね。由利郡内のあ
る町長さんが視察にきて、国道
のあつちでもこつちでも、一つ
べんに建設事業が起こされてい
るのでビックリされた、という
ことをきいております。
B なんといつても国道の大き
な橋が永久橋になったことはう
れしいことです。水害にも冬期
間のバス運行も、そうビクビク
しないですみます。
それに大琴地区の舗装工事も完
成し、今年は蔵地区の継続が確
定しております。そして遂次、
老方・館合と主要区間は舗装化
され、他の区間も路盤改良が実
施されると、もうオンボロ道路
は昔話になつてしまします。

夢でない、十文字線の バス運行

A ところで今年はどんな工事
が予定されているのでしょうか
B そう、国道関係では先にい
つた蔵地区の舗装と老方・館合
区間の測溝工事、これは舗装化
に備えてです。路盤改良は島と
舟木地区、それに久保地区の特
殊改良も予定されております。
林道は黒沢線が新規開設されま
すし、茂沢線も計画中です。
A 県道の玉米、矢島線と山崎
鴻屋・十文字線の改修も続けら
れるでしょうね。

B もちろんでしょう。沿道関
係町村との交通、経済交流も大
きく口が開けますので、町村民
の期待も大きいようです。とり
わけ十文字線はわずかの未改修
区間ですから、これができると
館合・松柴・羽後町門前と結ん
でバス運行も期待できます。
それから雄物川町と結んで旧横
荘鉄道路線の県道昇格も機会あ
るごとに要望しています。

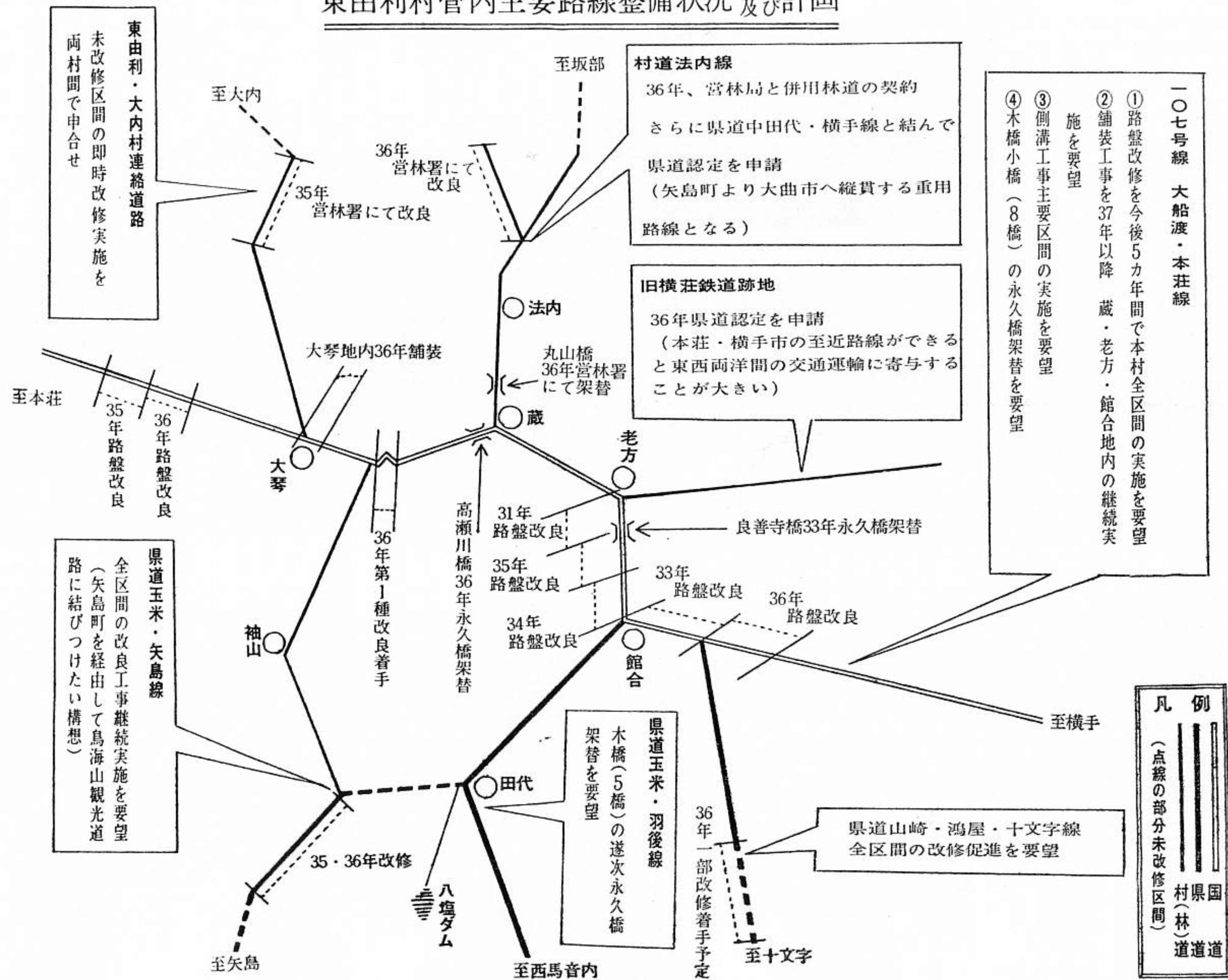
A 法内線は営林局との併用林
道として昨年、丸山橋の架替、
白ヶ沢林道の拡巾などすべて営
林署単独で行つてくれたので、
本村にとつてはまつたくありが
たいことでしたね。

B これの工事費は総額一千万
円以上といわれておりますが、
全部営林署が負担してくれまし
た。ほんとうにありがたいこと
です。
これもやがては県道に昇格させ
るべく今から働らきかけており
ます。

ともに繁栄するための 道路施策

A 考えてみるとこれらが実現
した場合、本村周辺の本荘市、
横手市はもちろん、矢島町、羽
後町、雄物川町、大曲市、大内
村へと道路が四通八達して、由
利郡のチベットといわれてきた
本村ですが、まったく面目一新
されます。まあ、この道路施策

東由利村管内主要路線整備状況及び計画



を推進していく過程において、
またその後もそうでしょうが、
いままでになかった本村の存在
価値が生まれてきていることは
事実ですね。

ともに栄えていくために、我々
は我々なりの力をふりしぼって
努力していくのだといっていま
す。

いわば周辺の市町村の要(かな
め)でもある本村にはそれだけ
使命が重くのしかかっている
といえるでしょう。

A 道路は例えてみれば血管で
す。どんなによい血液があつて
も血管が大夫でなければなりま
せんし、この丈夫な血管をどん
どん血液が通つてはじめて生活
経済という体が成長してくるわ
けで、この血管づくりは村づく
りの基盤となるでしょう。

農村の近代化にスピードをつけ
るためには、この道路というレ
ールがしつかりしていなければ
なりません。

B そうですね。昨年もそうで
すし、また今年も、この建設の
つち音に明け、そして暮れるこ
とでしょう。

成人行事のしおり

成人該当者100名

公人として第2の人生の門出を迎えられる本村の成人該当者は現在100名を数えている。恒例の式典は1月15日午前10時より役場で挙行される。

1月6・7日 成人講習会

お互いの話しあいや学習を通じて、新しい成人としての自覚をたかめあうため、村公民館では次によつて成人講習会を開催するとき 1月6・7日(1泊2日)

ところ 老方小学校

- 内容 ①≡村長を囲む≡座談会
②講話「時の動き」木村与之助氏
③講話「郷土のかくれた偉人」畑山伝二郎氏
④模擬選挙—指導・村選管
⑤映画学習「聖火羽後路に燃ゆ」ほか
⑥レク・かるた会、ほか

成人論文6日まで

募集している成人記念論文のしめ切りは5日までであるが、成人講習会当日に持参されても受付けされる。

テーマは「東由利村を発展させるために」原稿枚数は四百字詰用紙4～5枚程度

▶転出されている方で、特に郷土で成人式を迎えたいと希望される方は、至急申出されること。



牛・牛のどかな放牧風景

酪農の成果がみえてくる年

今年は五〇〇頭まで増殖

村政対談

三年間は苦闘の連続
だつた飼育農家

A 話題をかえて、この道路と並んで村政の柱となっている酪農事業について話しましょう。

ジャージー牛の第一次導入は三十三年の末ですから、三年経過したことになります。

B そうですね。「石の上にも三年」といわれますが、酪農の効果というものは今年あたりから見えてきますよ。

飼育農家がこれまで見たことも聞いたこともないジャージー牛をかゝえて、陣痛の苦しみとは

いえ、よくこれまで基盤づくりにがんばられたものです。

ほんとうに大変だつたでしょう

A はじめてジャージー牛を見たとき、小さい体で、おまけにやせてしまひ毛がバサバサたつておりましたので、はたしてこれで乳を出してくれるのか不安な感じがしました。頼りなくつてね。

B もうジャージーといつたら県内では東由利村が代表です。

森岳でも牛を何とかゆづつてくれといつてくるし、本村には本村の計画があるしで、痛しかゆしですね。

A 現在どのくらいの頭数があるんですか。

B 三七〇頭です。このほか森岳に二二頭出しております。今年は五〇〇頭まで増殖する計画ですが、ぜひ実現したいものです。

生活慣習まで変えつつある酪農

A 村の姿が変りましたね農家の庭には二・三本ずまサイロが立つているし、西欧風の畜舎が立つし——

B 外ばかりではありませんよ。農業そのものが変わってきます。今までは何かなんでもと米にばかりすがりついてきましたが、これか

らは、酪農も経営の中心に入っていきますから、やがては生活慣習まで変つていくでしょう。

A 食生活はもちろん、さく乳のために時間に対する観念、記帳生活と、これまで農家で不足していた派生的な長所というか効果もでてきますね。

ところでとかくジャージーは乳量が少ないという不評がつきま

五・六産目から多くなる乳量

B 技術の不慣れも多分にあるんでしようが、時間の問題とみてよいでしょう。

とかくジャージーは一・二産目は乳量が少ないという性質ですから、五・六産目になつたら

つともつと多くなります。畜産係の話でしたが、全国ジャージー品評会に入賞した牛は六産目でホルスタイン顔負けの八トン(年産)といわれております。それも導入牛ですよ。

決つて心配はいりません。現に黒淵の佐藤さんなど二産目で四・六トンでこれが最高ですが四トン以上の生産乳量を上げた牛が沢山あります。

現在はまだ投資の時期だからみてこないでしようが、二・八トンの乳量があれば採算がとれるといわれておりますから、三トンあればまず曲りなりに経営が成立つし、それ以上はもうけといえるわけです。

A そうですね。早い牛でボツボツ四産目に入ろうというところですから、もつと長い目で見てよいですね。

具体化してきた共同化と多頭飼育

B これまで一番苦しかったのは飼料、とくに草がなかつたことです。何も与えるものがなくて乳を出せとか、高い飼料代をはらつて採算をとろうといつても大体いう方が無理な話で、これも草地改良がどんどん進んできましたからもう少しで解決できます。

A 今年はどれくらいの草地改良が計画されているでしょうか

B 二〇ヘクタールです。これまで一二五ヘクタールですからまずまずの面積になります。

A いわば草地改良を進めて、ただとはいわないまでも安い飼料を確保することが経営安定のカギですね。

それからもう一カ所、放牧場をつくるという話を聞いておりましたか

B 若林に計画されているようです。長根谷地・朴の木沢とこれです。三つできるわけです。

A 共同化の話も具体化してきているようですね。

B ええ、黒沢・高戸屋などでは共同畜舎、小倉では共同さく乳所といった具合です。

融資の途も例の基本法で、ますます大きくなります。

これも条件が整い次第実現できるでしょうが、一農家の多頭飼育を考えている人も相当ありますし、共同多頭飼育はそれだけ有利なことはいまでもありません。

A 乳業会社の進出も目立って活ばつてきましたし、おそらく米のように乳が余つて困るということはまずないでしょうから、酪農は成長産業のトツプといつてもさし支えありませんね。

B まったくです。